

昭和 44 年卒 同期会報告

「65、66 歳が高校生に戻った数時間」

母校見学会

「入学 50 周年記念」の同期会に先立って母校見学会を行いました。

「天候もイマイチだし参加者は数名だろうネ」との想定を裏切る人数が小雨の中、集合。

「駅から母校への道に迷ってしまった」との友。母校脇を巡っていた湧水は暗渠下、時計台のない校舎、林立するビル群に遮られる視界…。迷っても仕方ありません。集合場所の歩道橋横では「久しぶり～」「懐かしい～」は僅かで「あなたは誰？」「君こそどなた？」でした。

「そのうち思い出すヨ」。14:30、そんな状態で見学会は始まりました。

見学会は先ず、地図の専門家H氏が示す大正10年の地図資料の解説からスタート。「ひがしはちわうじ」と表記される駅が母校の目の前にあったことを教えて頂きました。そして校内に。創立者胸像を見上げ、今や中学生が入学してくる「都立南多摩中等教育学校」へと大変身した我らが母校「都立南多摩高校」閉校記念碑に目を転じ、美しく黄葉したイチョウを愛で、戦火にも負けずに蘇ったクスノキを仰ぎ、マテバシイのドングリを拾い、カリンの香りを確かめたりしていると目の前に野球部の女子マネージャー2人の姿。「このオジサン、オバサン達は50年前に入学した皆さんの先輩」と挨拶し「将来の夢は？」「甲子園には行けそう？」等と楽しい会話。校長室を外から眺め、後輩たちに寄贈した多摩産材で作られたイスとテーブル等を遠望し次なる目的地へ向かいました。

母校土地提供者のお孫さん宅訪問

そこは、我が母校の広大な敷地をまとめて提供してくださった方のお孫さんが暮らすお宅。大勢でお邪魔しましたが大歓迎していただきました。土地の提供者は祖母ナツさん、その場所に建った第4高女に通われたお母様のツヤさんは人力車で送り迎えだった等のお話しを披露してくださいました。ご本人も南多摩の卒業生。玄関先で撮った写真をすぐさま人数分を焼き増してくださり同期会会場に持参してくださいました。思ってもいないご配慮に驚き感謝の心を込めて登壇をお願いしましたが固辞されました。「それでは私たちの気持ちがおさまりませんので・・・」と懇願し会場での挨拶を頂いた次第です。同期会に我らが集った淵源はこの方の祖母ナツ様、そして創立者がいたからですので・・・

いよいよ同期会

サンディエゴからの参加、スイスから帰国したばかりの方、大学教授、市議会議員、画家、声楽家、会社重役、北海道から駆け付けた管制官、地図やトリのエキスパート、税理士、薬剤師、ベリーダンスもフラダンスもこなす非凡なる主婦、数千を超える教え子を持つ多くの教員、有能な公務員・・・多士済々でした。でも、みんな同期生。多くが現役を引退する年齢。余生なんて言葉は余った生ですが我が同期生は皆元気で世の中にまだまだ与えるべき

ものとその気力・実力を備えた「与生」を生きていると感じました。

大きな賛同の拍手

その中でも会社重役だったS氏の近況報告は奥様へ美味しい朝食を作って差し上げているとお話でした。このお話しには非凡なる主婦集団の同期女性陣が「ウン、ウン」と大きく頷きながらのそれは、それは大きな、大きな賛同の拍手を送っている姿を私は見逃しませんでした。彼のスクランブルエッグは絶品だそうです。今度、チャンスを作って彼のウクレレ演奏を聴きながら皆で試食させて頂きたいものです。

お元気な恩師

ご出席いただいた恩師、相沢先生が「与生」の先頭を走っています。恩師、三浦先生の溢れる若さはまるで「同期生」でした。両先生、ご出席本当にありがとうございました。刺激的な卒後教育を今後とも宜しくお願い致します。

スライドショー、オー・ソレ・ミオ

スライドショーは盛り上がりました。「ワー！」「懐かしい～」「これって山中湖？」「キャー、カワイイ～」の歓声が会場に溢れました。作成中心者T氏および写真提供など応援の皆さんに大感謝です。記録係りのH氏にも大感謝、素早いHPへの写真アップに反響が続々（写真の中には相沢先生撮影の写真も多数）。「華やぎて声あわせた」校歌斉唱指導のM氏とMさま、ありがとう！M氏のオー・ソレ・ミオは圧巻でした。同期会も終盤、夜も更けてきましたが閉会直前の会場には明るい「太陽」が輝きました。

発起人の皆さん、ありがとう！

そして、モウさん、久美ちゃんをはじめとする発起人の皆さんお疲れ様でした。次回も期待しちゃいます。二次会でも語り尽くせずに三次会もあったとか・・・病み上がりのT氏も三次会に参加したと聞き、これは全快の証拠と安心しました。トリのS氏、高校時代は同級生だったのに浪人したばかりに大学に行ったらキャンパスには先輩になっているKさまとバッタリ。今回はその先輩と楽しく語ったそうでメダシメダシ。

「♪われら若人～♪」

14：30からの母校見学会から携わり、司会もKちゃんとやらせて頂いてちょっとお疲れの私。クマが出没する我が街は危険地帯なので、あまり遅くならないように二次会で失礼させて頂きました。お陰様でクマさんに遭遇することなく無事に帰宅できました。クマ対策にも有効かと「♪湧水は街をめぐり～♪」「♪われら若人～♪」と歌いながら駅からの帰路につきました。

（我が家から徒歩15分の所にクマ出没する街の住人が記憶の褪せないうちにと記しました）